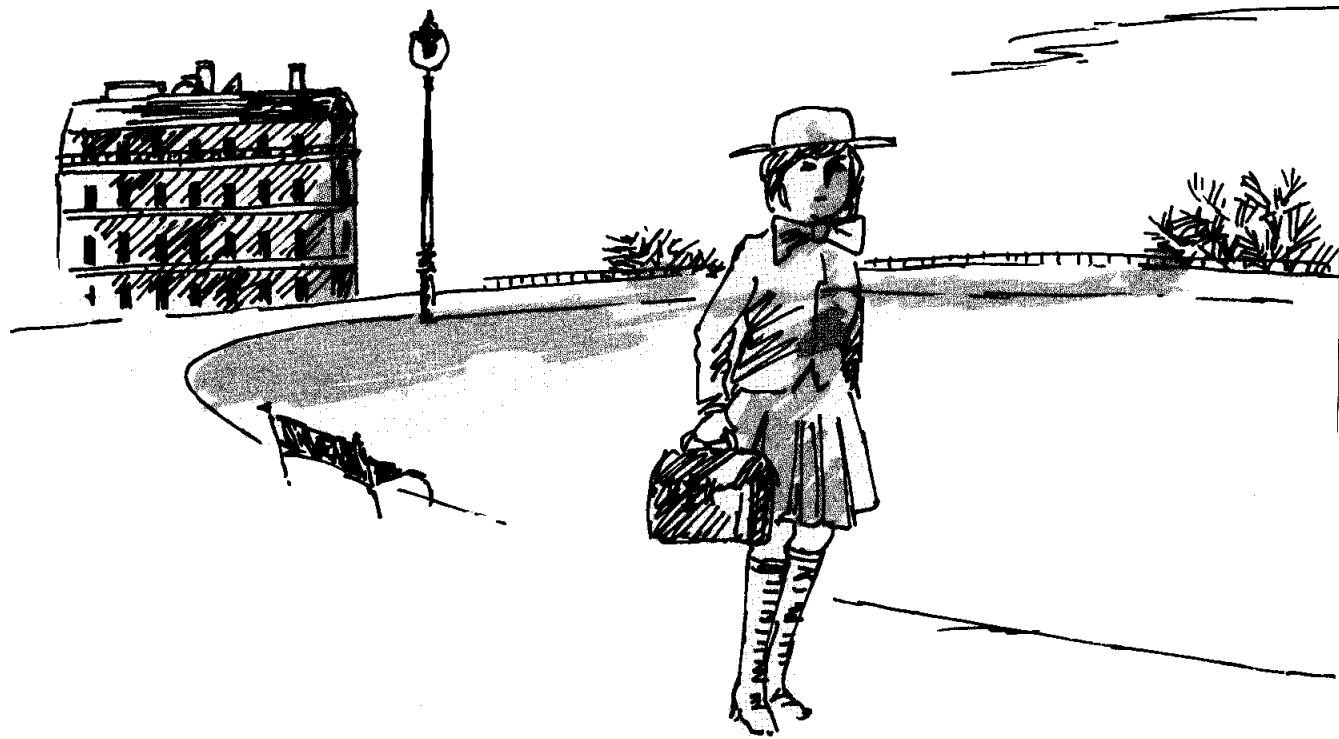


YAMAHA ELECTONE

取扱説明書

C-300
C-400



**エレクトーンを
楽しく弾きましょう。**

ごあいさつ

このたびは、ヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。エレクトーンは、楽器づくり90年の経験をもとに、ヤマハが精魂こめてつくりあげた電子オルガンです。

(エレクトーンはヤマハ電子オルガンの商品名です。)この楽器は、さまざまな楽器の音色を持ち、初心者の方でも手軽に楽しめる機能を数々取り入れていますので、ご家族みなさまの楽器としてご愛用いただけることと存じます。本書では、エレクトーンの持つ多彩な機能をすべて活用していただくために、正しい取り扱い方法を説明してございますので、是非ご一読くださいますようお願い申しあげます。なお、別紙の「各部の名称」は、エレクトーンのそばの壁などに貼られて、名称を覚える際にご利用ください。

目次

楽しさは正しい理解から ①

PART1. 楽しみかた、弾きかた ②

1 まず音を出してみましょう ③

2 音色をつくつてみましょう ④

3 効果を加えてみましょう ⑦

4 オートリズムの使いかた ⑩

5 オートベースコードの使いかた ⑫

6 オートアルペジオの使いかた ⑯

お楽しみ機能について ⑯

仕様と音域表 ⑰

PART2. さあ、弾いてみましょう! 正しい姿勢は上達のポイント ⑯

2 楽譜の読みかたと指づかい ⑯

練習曲「聖者が町にやってくる」 ⑳

練習曲「夕やけこやけ」 ㉑

付属端子と音のエチケットについて ㉒

長くお楽しみいただくために ㉓

このような現象は故障ではありません ㉔

サービスと保証について ㉖

エレクトーン教室のご案内 ㉘

エレクトーン豆知識 ㉙

語句索引 ㉚



C-300

各部の名称



上鍵盤：44鍵(3 $\frac{2}{3}$ オクターブ)
下鍵盤：44鍵(3 $\frac{2}{3}$ オクターブ)
ペダル鍵盤：13鍵(1オクターブ)



C-400

各部の名称



YAMAHA ELECTONE

楽しさは正しい理解から



エレクトーンは少しでも多くの人々に音楽のある生活、楽器を演奏する楽しさを知っていただきたいという考えから生まれた、楽しく、やさしい楽器です。この楽器は歴史こそ浅いのですが、急激に進歩する電子技術を取り入れながら、より楽しく、やさしい楽器を目指して、改良を重ねてまいりました。例えば、ピアノではメロディー、ハーモニー・ベースの三要素を一つの鍵盤で表わさなくてはなりませんから、その組み合わせがとても複雑になっています。でもエレクトーンでは、これらの要素を三段の鍵盤がそれぞれ一つずつ受け持ち、はつきり使い分けることができます。ですからちょっと見ると三段も鍵盤があって、難しそうな感じを受けられるかも知れませんが、実はこの方が簡単に演奏できるのです。そしてエレクトーンは簡単な操作で、いろいろな楽器の音色を出せ、さらにそれを組み合わせたり、効果を加えたりできます。つまり、これ一台で他の楽器何台分もの働きがあり、その楽しさは無限に広がっていくものといえるでしょう。

とは申しましても、この楽しさは楽器の正しい取り扱い方を知っていますと、半減してしまいます。是非本書をご一読のうえ、充分にお楽しみください。

PART1.

楽しみかた、 弾きかた

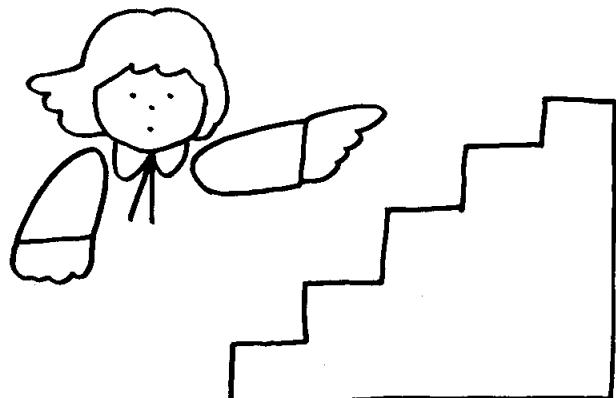


ここからのページは、それぞれのレバーなどを説明してまいります。まず、「きそコース」にはエレクトーンを演奏なさるときに必要な、基本的なことをまとめてあります。レバーなどの使いかただけをお知りになりたいときは、このコースを読まれるとご理解いただけるものと存じます。さらに、もっと詳しくお知りになりたい方は、「けんきゅうコース」をお読みください。このコースには、「きそコース」に書かれていることがらについて、より細かく説明してございます。

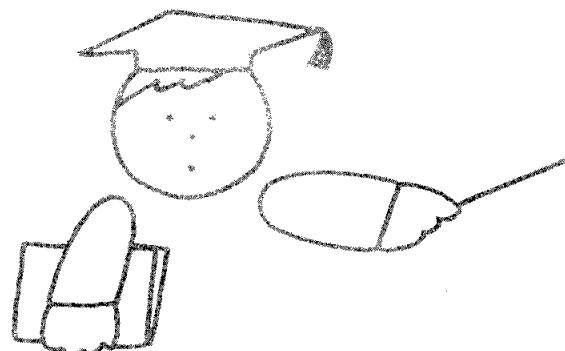
この「けんきゅうコース」を読まれることによって、演奏の楽しさも、より一層増すことと思います。また、最後のページには「エレクトーン豆知識」と「語句索引」がございます。「エレクトーン豆知識」には、エレクトーンについて使われる語句に簡単な説明を加えてありますので、どうぞご利用ください。

本書は是非譜面台に置き、書いてあることがらを実際に確かめながらお読みください。

●きそコース



●けんきゅうコース



●きそコース

1. 電源コードをコンセントに入れてください。
エレクトーンは電子楽器ですから、電気が必要です。まず、コンセントにコードを入れてください。

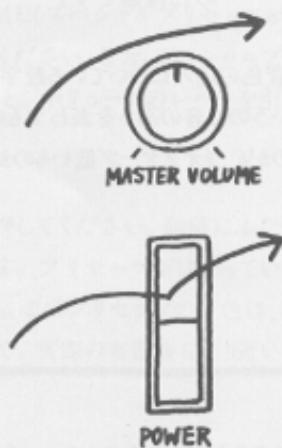
2. 鍵盤蓋を開けてください。
鍵盤蓋は最後まで手で持って開けてください。途中で手を離すと、勢いよく巻き込まれて、大きな音をたてることがあります。

3. 電源スイッチをONにしてください。

(ここからエレクトーンを弾き始めるわけですが、正しい姿勢については18ページをごらんください。)上鍵盤のむかって右側のパネルにある、POWERと書かれたスイッチ(パワースイッチ)を入れてください。下鍵盤の手前右にあるランプ(パイロット・ランプ)が点灯します。これでエレクトーンに電気がはいったのです。

4. ボリュームコントロールを調節してください。

パワースイッチの奥にある、MASTER VOLUME(マスター・ボリューム)と書かれたツマミを右に回してください。これは全体の音量を調節するツマミです。右に回せばそれだけ大きな音が出ますが、だいたい中くらいの位置にしておけばよいでしょう。



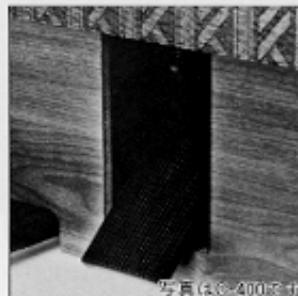
●けんきゅうコース

きそコースのとおりにしても音が出ないことがあります。

○上鍵盤の音が出ないとき。
マニュアルバランスが真中を指しているか、確かめてください。また、プリセッツアンサンブルのスペシャルプリセッツと書かれたタブレットやカスタムボイス(C-400のみ)のタブレットが押されていないかも見てください。

5. エクスプレッションペダルを調節してください。

ペダル鍵盤の右側にあるペダルを踏んでください。これはエクスプレッションペダルといって、演奏しながら音量を調節するためのペダルです。これが手前に戻っている状態では音がでません。



6. 音色をセットしてください。

上鍵盤の上にあるパネルにUPPER LOWER PEDALSと書かれた所のレバーがトーンレバーです。UPPER(アッパー・上鍵盤のことです)、LOWER(ロワー・下鍵盤のことです)、PEDALS(ペダルスー・ペダル鍵盤のことです)、それぞれのトーンレバーを下におろしてください。

7. 鍵盤を押してください。

どうですか、音がでたでしょう。この1.から7.までの順序は、この通りでなくても構いませんが、どれ一つ抜けても音は出ませんから、よく覚えてください。

●きそコース――――――――――――――――――――――

1. 上鍵盤の音色をつくるみましょう。

○トーンレバー（Iの6で説明したレバーです。）



C-400／上鍵盤のトーンレバーは左から

緑色のATTACK4'(アタック4フィート),2%'-立ちあがりの早い音で、主に他の音色と組み合わせて使います。

白色のFLUTE(フルート)16',8',5½',4',2%'
赤色のTROMBONE(トロンボーン)16',CLARINET(クラリネット)16',TRUMPET(トランペット)8',OBOE(オーボエ)8'

黄色のSTRING(ストリング)16',8',4'

緑色のWAH-BRASS(ワウプラス)－管楽器系の音色で、“ワウワウ”というように微妙に変化します。

の15種類です。

アタック4'の横のATTACK LENGTHという黒いレバーは、効果を加えるためのものですので、後で説明いたします。このトーンレバーは単独でも、組み合わせても使えます。組み合わせる時は、一つ一つのレバーがクリックストップ方式によって3段階に音量調節でき、例えば3種類のレバーを使って30種類以上の音色がお楽しみになります。

●けんきゅうコース――――――――――――――――――――

1. カプラー効果

トーンレバーには、ほとんどの音色に、FLUTE8' とかBASS16'といった数字が書いてあります。これは、パイプオルガンのパイプの長さに由来するもので、8' というのは、パイプの長さが8フィートのときの音を基準にした音程であることを意味します。16' は8' にくらべてパイプの長さが2倍になるので1オクターブ低い音が出ます。反対に4' の場合はパイプの長さが半分になるので8' のときよりも1オクターブ高い音が出ます。ですからたとえば、16' のトーンレバーを入れてキーをひとつおさえると、おさえたキーの音程よりも1オクターブ低い音が出ます。また、16', 8', 4' といった異なるフィートのトーンレバーを同時にセットすれば、ひとつのキーを押すことにより、いろいろな高さの音がミックスされ、複数の音が同時に鳴ります。

C-300／上鍵盤のトーンレバーは左から

緑色のATTACK4'(アタック4フィート),2%'-立ちあがりの早い音で、主に他の音色と組み合わせて使います。

白色のFLUTE(フルート)16',8',4',2%'
赤色のTROMBONE(トロンボーン)16',CLARINET(クラリネット)16',TRUMPET(トランペット)8',OBOE(オーボエ)8'

黄色のSTRING(ストリング)8',4'

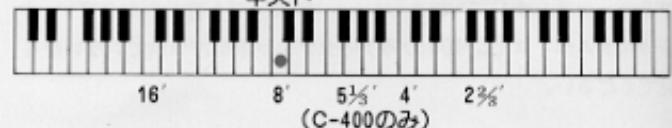
緑色のWAH-BRASS(ワウプラス)－管楽器系の音色で、“ワウワウ”というように微妙に変化します。

の13種類です。

各音色の後ろに付いている数字は～フィートと読みます。フィートというのは音の高さを表すもので、8' を基準に1オクターブ高いものが4', 1オクターブ低いものが16' です。(けんきゅうコース参照)

クスされた厚みあるハーモニーを得ることができます。このようにひとつのキーから、いくつもの鍵盤をおさえたのと同じような音(和音)を得ることをカプラー効果と呼んでいます。

中央ドを押したときカプラー効果によって出る音
中央ド



●プリセツツ

プリセツツではより実際の楽器音に近い音色が、あらかじめ組み込まれています。



上鍵盤の上のパネルにあるSPECIAL PRESETS(スペシャルプリセツツ)というボタンがプリセツツです。

PIANO(ピアノ) HARPSICHORD(ハープシコード)、GUITER(ギター)、VIBRAPHONE(ビブラフォン)、BANJO(バンジョー)、MANDLIN(マンドリン) ACCORDION(アコーディオン)の7種類があります。この音色を出すには、まずお好みのプリセットボタンを押し、次に上鍵盤左側パネルのPRESETS ENSEMBLE(プリセツツアンサンブル)と書かれた所にある、黄色のSPECIAL PRESETS(スペシャルプリセツツ)というタブレットを押し、SPECIAL PRESETS VOLUME(スペシャルプリセツツボリューム)のレバーで、音量を調節してください。なお、スペシャルプリセツツのタブレットが押されると、ボリュームのレバーを引かなくても音が少し出ます。

プリセツツは、ひとつだけ選んで、押してください。同時にふたつ以上入れた時は右側の音色が出ます。プリセツツが「はい」している時はトーンレバーの音色は出ません。このプリセツツの音色は、トーンレバーの音色とは別の出方をして、実際の楽器音により近いものになっています。

●カスタムボイス(上鍵盤のみ)

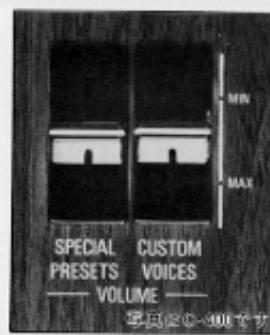


事前設定C-400です。

C-400にはトーンレバーとプリセツツの音色に加えて、カスタムボイスがあります。カスタムボイスの特徴は、音色、音量が時間的に変化して、より実際の楽器音に近い表現ができます。カスタムボイスは単音で出ますが、同時に二つ以上の鍵盤を押すと、高音が優先されます。また、スペシャルプリセツツやトーンレバーの音色と、組み合わせて使うこともできます。(けんきゅうコース参照)種類は次のとおりです。

VIOLIN(バイオリン)、TROMBONE(トロンボーン)、TRUMPET(トランペット)、FUNNY(ファニー)

この音色を出すときは、まずお好きなカスタムボイスのボタンを押して、PRESETS ENSEMBLE(プリセツツアンサンブル)と書かれた所のCUSTOM VOICES(カスタムボイス)というタブレットを押してください。それからCUSTOM VOICES VOLUME(カスタムボイスボリューム)のレバーで音量を調節してください。



事前設定C-400です

	フィート数	実際に出る音	使われた例
上 鍵盤	16'	1オクターブ下の音	厚みを加える
	8'	押した鍵盤と同じ音程	基本的な音
	5½'(C-400のみ)	5度上	ジャズオルガン的な感じにする
	4'	1オクターブ上	8'に強さと明かるさを加える
	2½'	1オクターブと5度上	かたい音にする
ペダル 鍵盤	16'	押した鍵盤と同じ音程	基本的な音
	8'	1オクターブ上	16'の音に強さと明かるさを加える

2. 下鍵盤の音色をつくってみましょう。

トーンレバーの扱いかたは上鍵盤の場合とまったく同じですが、下鍵盤の音色はLOWER(ロワー)と書かれた所のレバーでつくります。



下鍵盤のトーンレバーは左から、

白色のFLUTE(フルート)8'、4'、DIAPASON(ディアパソン)8'

●ABCを使うときはPIANO(ピアノ)Iになります。

赤色のHORN(ホルン)8' ●ABCを使うときはPIANO(ピアノ)IIになります。

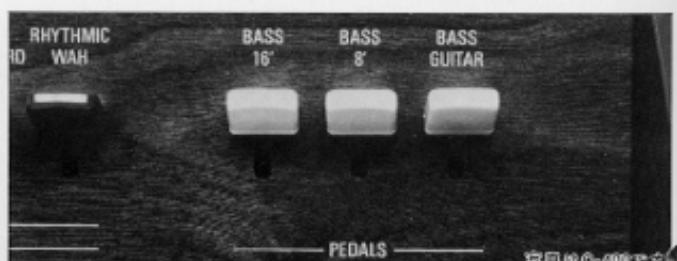
黄色のCELLO(チェロ)8'、4'、●ABCを使うときはそれぞれGUITER(ギター)、HARPSICHORD(ハープシコード)になります。

緑色のRHYTHMIC WAH(リズミックワウ)・リズムにのって音が“ワウ”といった感じでです。

の7種類です。

3. ベダル鍵盤の音色をつくってみましょう。

ベダル鍵盤の音色はPEDALS(ペダル)と書かれた所のトーンレバーでつくります。使いかたは他のトーンレバーと同じです。



ペダル鍵盤のトーンレバーは左から、

白色のBASS(バス)16'、8'

黄色のBASS GUITER(ベースギター)

の3種類です。

ペダル鍵盤はベースを受け持つところですから、それほど多くの音色はついていません。

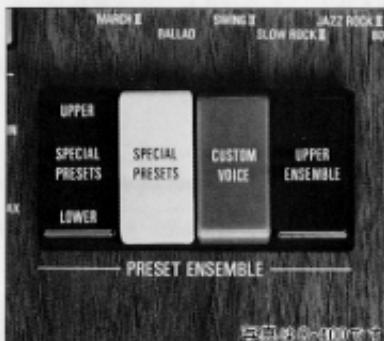
2. リズミックワウ

リズミックワウはオートリズムと連動させて使う、効果的な音色です。リズムをきざむたびに“ワウ”という感じで音がでますが、ワルツ、バラード、スイングI・II、ボサノバI・II、とは連動しません。

3. 音色の組み合わせかた。

上鍵盤のトーンレバーとスペシャルプリセツをセットし、PRESETS ENSEMBLEのUPPER ENSEMBLEというタブレットを入れてください。上鍵盤でトーンレバーとプリセツの音色が組み合わされて出ます。また、下鍵盤でプリセツの音色を使いたいときは、UPPER SPECIAL PRESETS LOWERというタブレットをロワー側に押してください。音程が1オクターブ高くなり、プリセツと下鍵盤の音色が組み合わされて出ます。この場合上鍵盤では、トーンレバーの音色だけが出るようになります。また、下鍵盤のトーンレバーを全部もどせば、下鍵盤でもプリセツの音色だけにすることができます。C-400ではさらに、カスタムボイスの音色を組み合わせることができます。カスタムボイスの音色を出すときに、SPECIAL PRESETSのタブレットが押されると、プリセツの音色も一緒に出ます。そこでUPPER ENSEMBLEのタブレットを押すと、トーンレバー、プリ

セツ、カスタムボイスの3つの音色が組み合わされます。SPECIAL PRESETSのタブレットをもどせば、トーンレバーとカスタムボイスの音色が組み合わされます。なお、カスタムボイスの音色は下鍵盤では使えません。



★スペシャルプリセツの音色を下鍵盤に移すと、上鍵盤での音色とはちょっと違った感じになります。これは上鍵盤で聞く音色には2%が含まれていたのに下鍵盤には2%の音は移らないからで、これによって下鍵盤で聞くプリセツ音色は、丸味のあるものとなっているのです。

効果を加えてみましょう

楽器にはそれぞれ固有の奏法があって、様々な表現ができるようになっています。エレクトーンでも、たゞいろいろな楽器の音色をだすだけではなく、そのような表現が電気的にできるようになっています。それが効果機能で、この使いかたを覚えればエレクトーンの演奏はより楽しいものとなるでしょう。

●きそコース――

1. ピブラート(VIBRATO)

ピブラートは音の高さをほんの少し動かして音をふるわせる効果です。弦楽器などでは指によって、管楽器では唇によって、音をこきざみにふるわせるのですが、エレクトーンのピブラートもこれと同じ効果を得ることができます。



上鍵盤の上のパネルにVIBRATO(ピブラート)と書いてある所のレバーです。



エレクトーンではDELAY(ディレイ)とDEPTH(デプス)の二つのレバーで、二種類のピブラートをつくれます。

1. 普通のピブラート

デプスレバーを手前に引けばかかります。引けば引くだけ、音の高さの動きが大きくなります。(クリックストップ方式によって三段階に調節できます。)

2. ディレイピブラート

これは、鍵盤を押してからちょっと間をおいてピブラートがかかる効果です。まずデプスレバーを引いてから、ディレイレバーを引けばかかります。(間はクリックストップ方式で三段階に調節できます。)デプスレバーを引いておかないと、ディレイレバーを引いてもピブラートはかかりません。

●けんきゅうコース――

効果の使いかた

1. ピブラート

ピブラートは基本的にトーンレバーの上下鍵鍵にかかりますが、ディレイピブラートに関しては上鍵盤だけにしか、かかりません。

2. トレモロ(TREMOLO)

トレモロは音を同じ音程でくり返して、音をふるわせる効果です。マリンバなどでは手を早く動かして音をふるわせますが、エレクトーンでは、スピーカーを回転させてこれと同じ効果を得られます。これは下鍵盤の左側パネルにTREMOLO(トレモロ)と書いてある所のタブレットでかけます。この六つのタブレットは次のような動きを持っています。



UPPER FLUTE (アッパーフルート)	上鍵盤のトーンレバー、フルート音色にトレモロをかけます。
UPPER ORCHESTRA (アッパーオーケストラ)	上鍵盤のトーンレバー、オーケストラ音色にトレモロをかけます。
LOWER FLUTE (ロワーフルート)	下鍵盤のトーンレバー、フルート音色にトレモロをかけます。
LOWER ORCHESTRA (ロワーオーケストラ)	下鍵盤のトーンレバー、オーケストラ音色にトレモロをかけます。
TREMOLO (トレモロ)	上・下鍵盤のトーンレバーに速いトレモロをかけます。(トレモロスピーカーを使います。)
CHORUS (コーラス)	上・下鍵盤のトーンレバーにゆっくしたトレモロをかけます。(メインスピーカーを使います。)

トレモロの早さはTREMOLO SPEED (トレモロスピード)のツマミがタブレットの左奥についていますから、このつまみで調節してください。

2. トレモロ

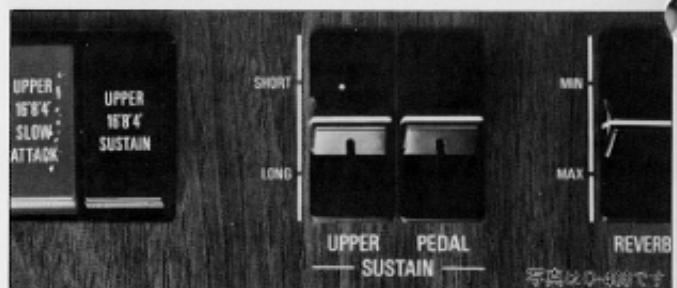
トレモロは上下鍵盤のトーンレバー音色にかけることができ、プリセツ音色にはかかりません。上鍵盤のフルート系音色とオーケストラ音色には分けてかけることができますし、ピブラートと組み合わせても、いろいろな感じを出すことができます。工夫してください。

3. サステイン

サステインは上鍵盤とペダル鍵盤のトーンレバーとプリセツの音色にかかります。このときプリセツの音色を下鍵盤に移すと、上鍵盤のトーンレバーと下鍵盤のプリセツの音色にサステインがかかります。(下鍵盤のトーンレバー音色にはサステインはかかりません。)また、上鍵盤のサステインはニーレバーを使って、演奏中にすばやくかけたり、かけなくしたりできます。ニーレバーの使いかたは、サステイン

3. サステイン(SUSTAIN)

サステインは音に余韻を持たせる効果です。ピアノなどの鍵盤楽器では、普通鍵盤から指を離しても、余韻が残ります。エレクトーンは鍵盤から指を離すと音がすぐ消えてしまいますが、このサステインを使って、余韻をつけることができます。これは下鍵盤の右側パネルにSUSTAIN(サステイン)と書いてある所のレバーとUPPER SUSTAIN(アッパーサステイン)というタブレットで、上鍵盤のプリセツとトーンレバー音色、ペダルの鍵盤トーンレバー音色にかけることができます。かけかたは、



上鍵盤／まず、アッパーサステインのタブレットを入れて、サステインレバーのUPPER(アッパー)を手前に引いてください。

ペダル鍵盤／サステインレバーのPEDALS(ペダル)を手前に引いてください。

これでサステインがかかるります。ただし、プリセツの音色にかけるサステインは、レバーで長さを調節することができません。スペシャルプリセツのうち、マンドリン、バンジョー、アコディオンにはサステインはかけられません。

また、アッパーサステインのタブレットが押してあると、レバーを手前に引かなくてもサステインが少しかかり、アタック音は出なくなります。

のタブレットとレバーを入れておき、右足の上あたりにあるニーレバーを起こします。こうすると上鍵盤のサステインはからなくなる。レバーを膝で右に押せばサステインがかかるようになります。膝をもどせば、またからなくなるというわけです。

▶サステインを入れるとアタック4'は鳴りません。ニーレバーを立ててサステインを切ったりかけたりすることによって、アタック4'を鳴らしたり鳴らさなかったりできますから、おもしろい効果を出すこともできます。

▶スペシャルプリセツのピブラフォンには、あらかじめサステインがかかるっています。サステインを切りたいときは、アッパーサステインのタブレットを入れて、ニーレバーを立ててください。

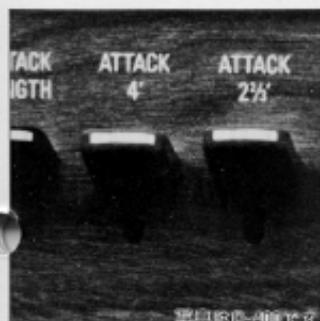
4. リバーブ(REVERB)

リバーブは音に残響をつける効果で、大ホールで演奏しているような音色が得られます。サステインレバーの右のREVERB(リバーブ)と書いてある所のレバーで、上鍵盤と下鍵盤の音色にかかります。レバーを手前に引くほど、残響が長くなります。



5. アタックレンジス(ATTACK LENGTH)

アタックレンジスは、トーンレバーのアタック4'、2 $\frac{3}{4}$ 'を入れたときに使うもので、アタック4'、2 $\frac{3}{4}$ 'のトーンレバーの左となりのATTACK LENGTH(アタックレンジス)というレバーで調節してください。手前に引くほどアタック音のきれる時間を長くできます。



4. マニュアルバランス(MANUAL BALANCE)

マニュアルバランスは、上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをとるためのものです。上鍵盤の左側パネルにMANUAL BALANCEと書いてある所のレバーで調節します。普通は真中の位置にしておきますが、上鍵盤のメロディーをもっと引きたたせたいときは、レバーについている白い線がUPPERの方に行くように回し、下鍵盤の音色を引きたたせたいときは、LOWERの方に回してください。

6. スローアタック

トーンレバー音色の16'、8'、4'の立ちあがりを遅くして、音にまるみを与えます。



7. シンフォニックコーラス(C-400のみ)

電気的にトーンレバーの音を操作して、オーケストラのような音の広がりをつくります。

トレモロと組み合わせて使うと効果的ですが、例えばトレモロアッパー・フルートとシンフォニックコーラスアッパー・フルートのように同じ系統の音色では、組み合わせられません。この場合はシンフォニックコーラスが優先されます。

